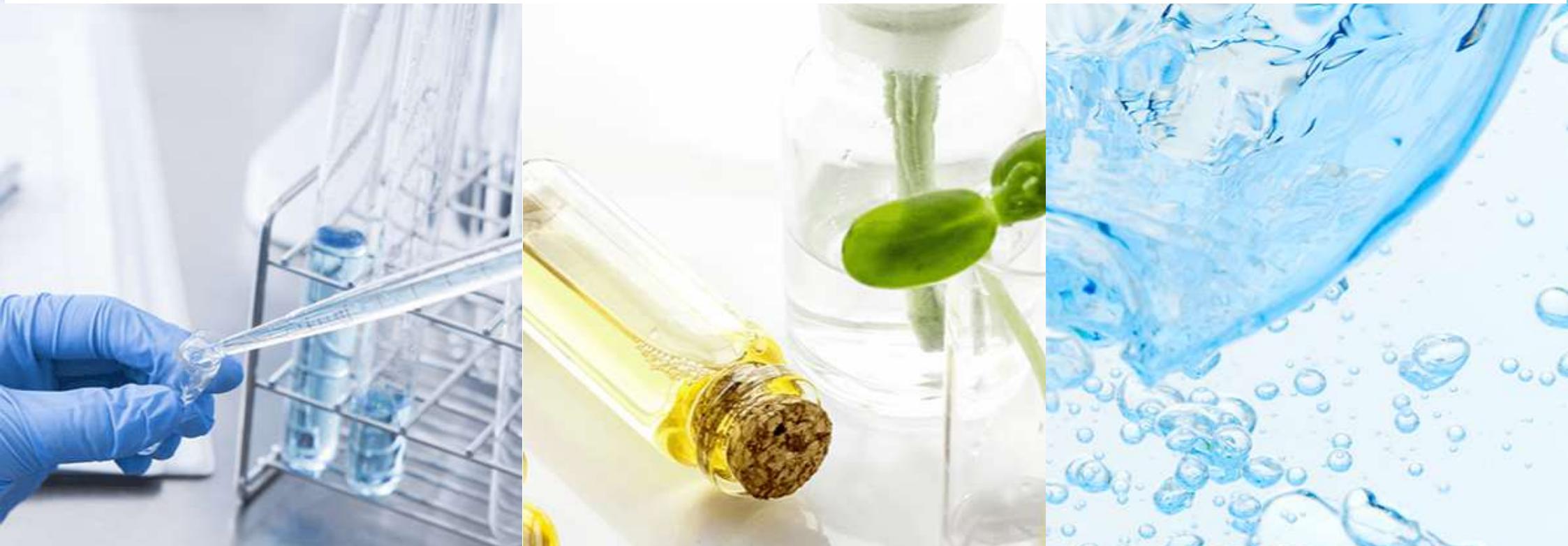


2026年5月期 第2四半期 決算説明資料

2026年1月



 室町ケミカル株式会社
(東証スタンダード 証券コード：4885)

1. 会社概要

2. 2026年5月期第2四半期 決算概要

3. 取り組み状況・トピックス

4. 業績予想

5. 中期経営計画の事業戦略（再掲）

6. 参考資料

会社概要

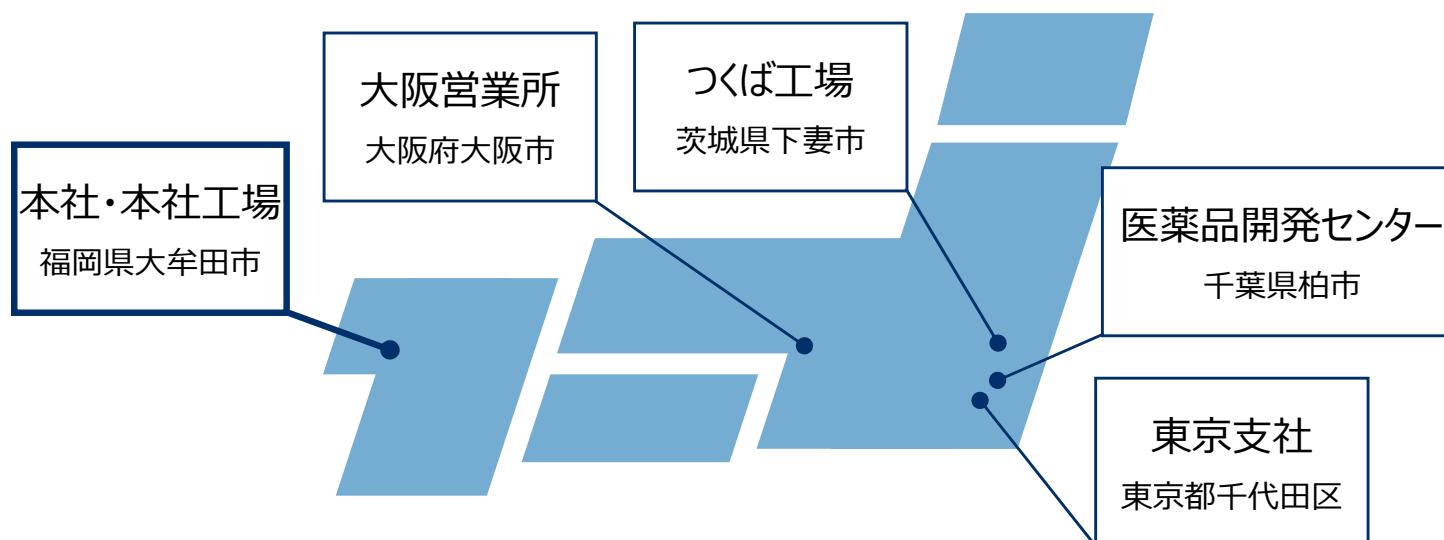


会社概要

 室町ケミカル株式会社

会 社 名	室町ケミカル株式会社 (MUROMACHI CHEMICALS INC)
代 表 者	代表取締役社長 青木 淳一
設 立	1947年7月 (創立: 1917年1月)
資 本 金	143,172千円
従 業 員	203名 (パート・臨時従業員を除く) 2025年5月末現在

<拠点>



大牟田市 本社工場

「医薬品」「健康食品」「化学品」の3事業

医薬品事業

医薬品原薬（薬の有効成分）の
製造・販売



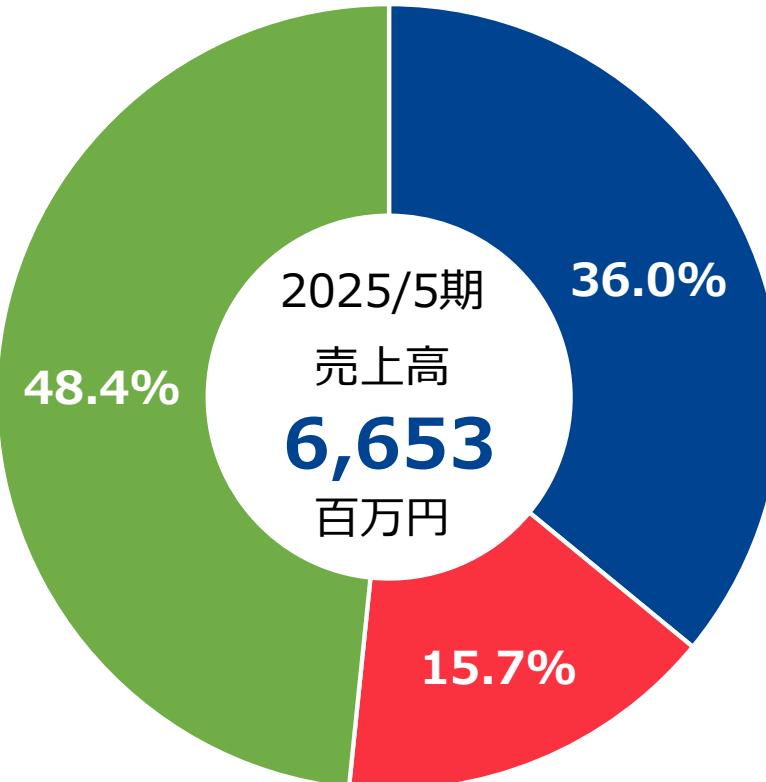
原薬の製造



原薬の精製・異物除去



海外原薬の輸入販売



化学品事業

液体から不純物を取り除く
液体処理製品の販売・加工



イオン交換樹脂



分離膜



水処理装置



イオン交換樹脂再生設備

健康食品事業

スティックゼリータイプなどの
健康食品の企画・製造

※2026年5月期末 事業撤退完了予定



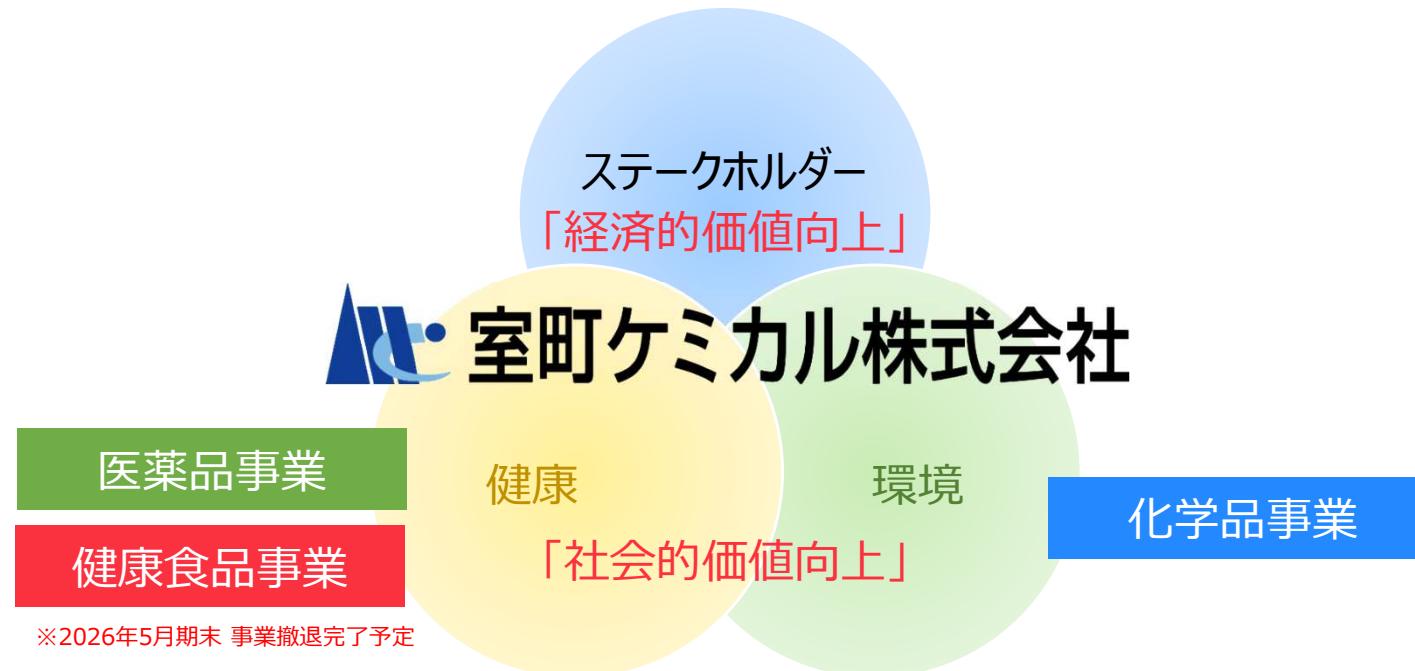
スティックゼリー



Tパウチゼリー

< パー・パス >

「健康」と「環境」をテーマに、社会へ貢献する



< 経営理念 >

私たちは人々との出会いを大切にし、
常に新たなチャレンジと実現化の努力により
社会に貢献する企業を目指します。

2026年5月期第2四半期 決算概要



- 売上高は前年同期より大幅に増加し、期初の想定を上回る進捗（半期における過去最高売上）
- 売上の増加により売上総利益も大幅に増加
- 販売費及び一般管理費は微増。当初の想定をやや下回る水準で推移

(百万円)

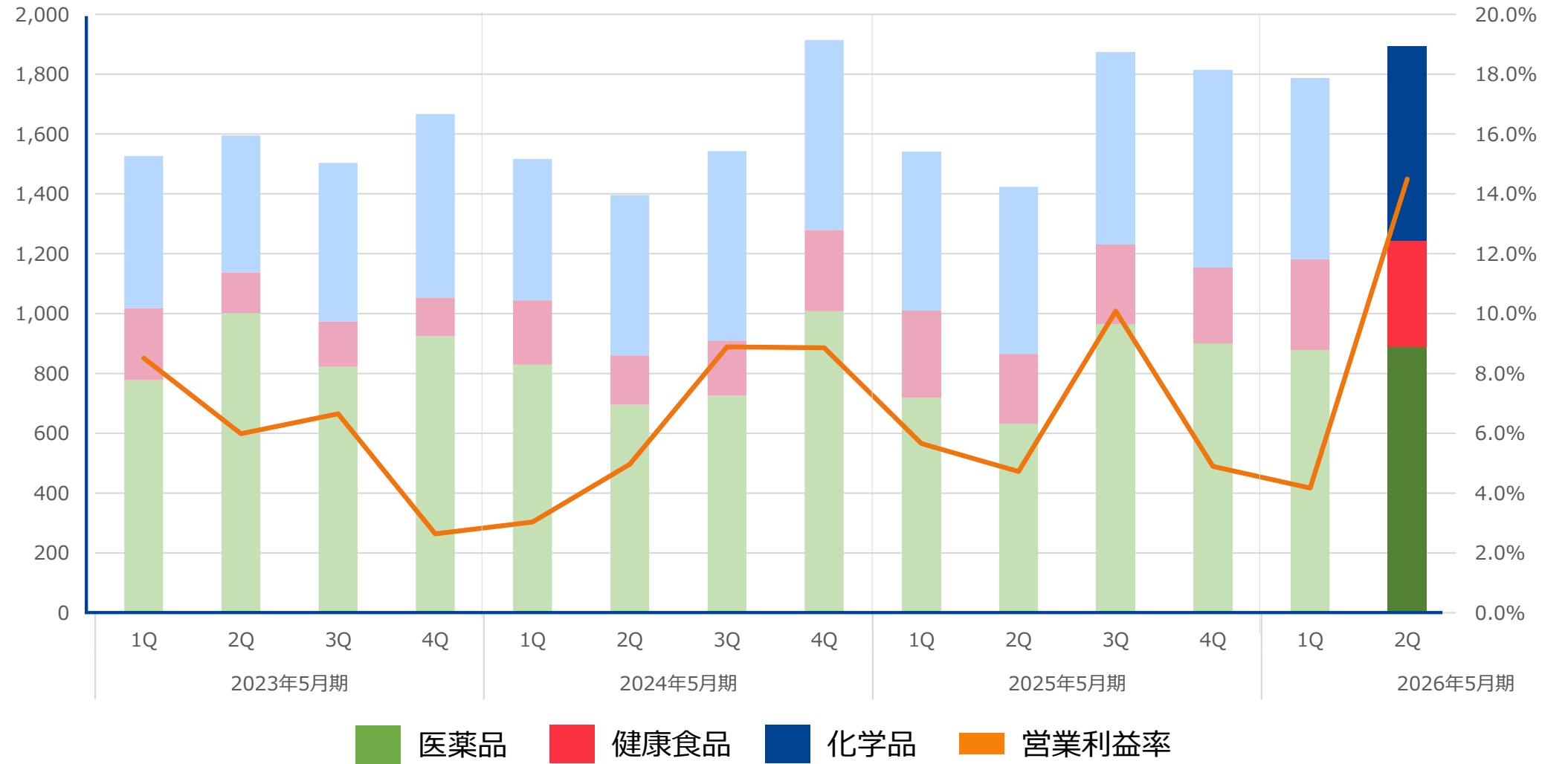
	2025/5期 第2四半期		2026/5期 第2四半期		前年同期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	2,965	100.0%	3,681	100.0%	716	24.2%
売上原価	2,075	70.0%	2,552	69.3%	477	23.0%
売上総利益	889	30.0%	1,129	30.7%	239	27.0%
販売費及び一般管理費	734	24.8%	779	21.2%	44	6.1%
営業利益	154	5.2%	349	9.5%	194	126.2%
経常利益	171	5.8%	336	9.1%	165	96.7%
当期純利益	120	4.1%	244	6.6%	123	102.2%

売上四半期推移

室町ケミカル株式会社

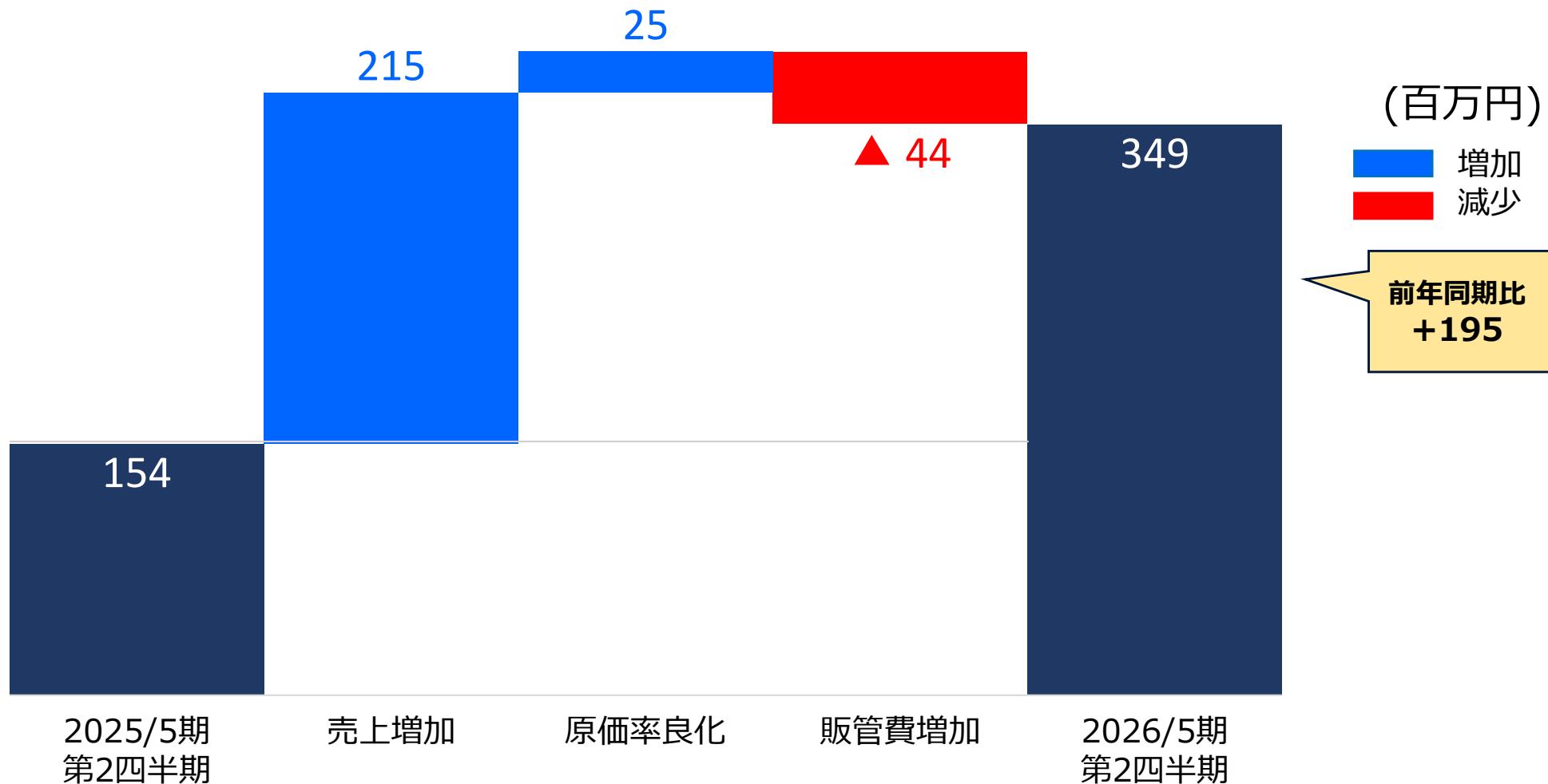
売上(百万円)

営業利益率



営業利益 増減要因（前年同期比）

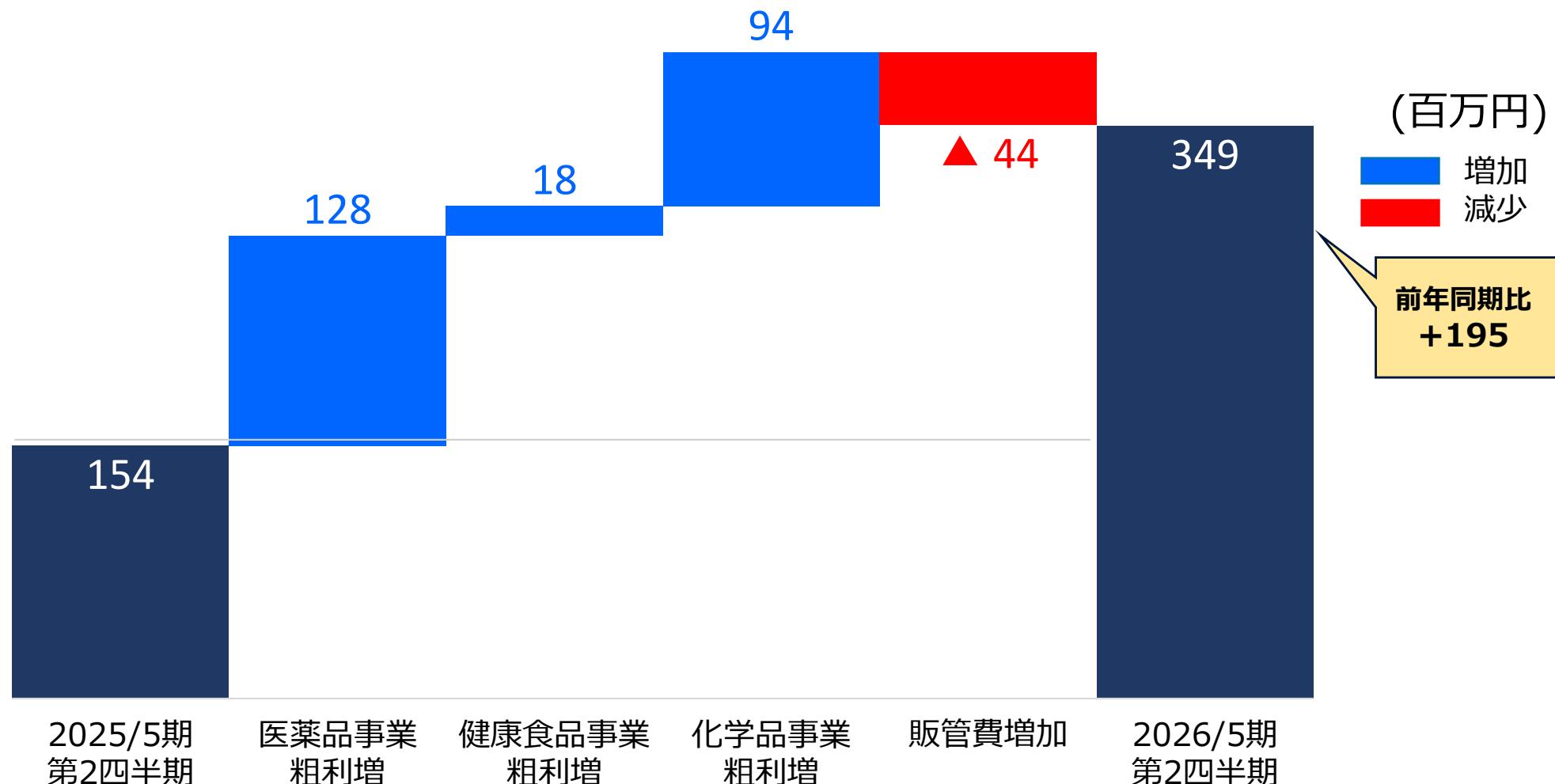
- 全事業において売上が増加
- 原価率は、工場稼働率の向上や商品構成の変化により若干改善
- 販売費及び一般管理費は、健康食品事業撤退に伴う経費や他2事業の開発および販売体制強化により微増



営業利益 増減要因（事業別・前年同期比）

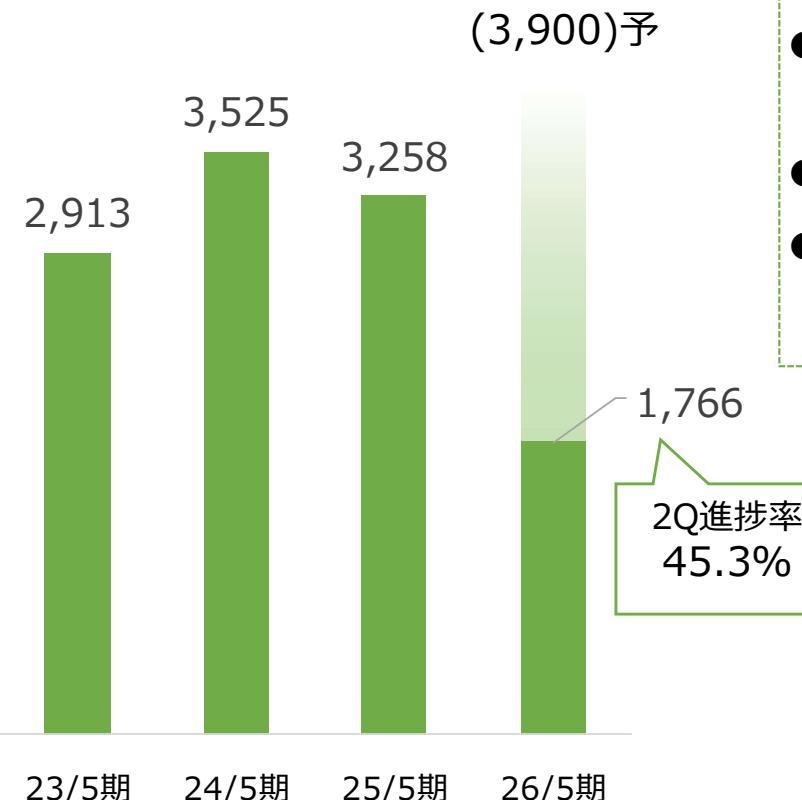
 室町ケミカル株式会社

- 全事業とも売上増加により売上総利益増加
- 化学品事業は、売上増加に加え、商品構成の変化により原価率が改善し、売上総利益増加



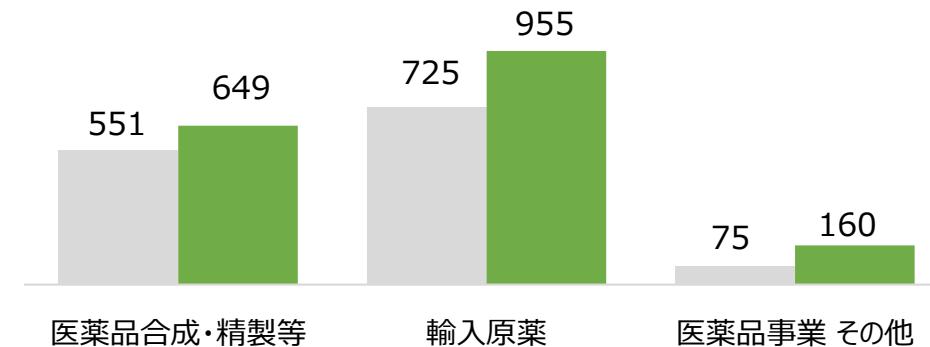
売上高	(前年同期比)	営業利益	(前同期差額)
1,766百万円	(130.6%)	285百万円	(+119百万円)

■ 売上高推移 (単位: 百万円)



- 輸入原薬の売上は、既存商品の需要拡大により大幅に増加
当該の売上増加は今期下期以降も継続する見込み
- 自社製造原薬は、既存製品の安定した需要に加え、新製品の上市が売上増加に寄与
- 自社製造品の売上構成品目の変化により、原価率はやや悪化
- 新規の輸入原薬の取り扱いに向けた活動と、合成・精製等の自社製造案件の立上げに尽力する

■ 商材別売上高 (単位: 百万円) ■ : 前期 ■ : 今期



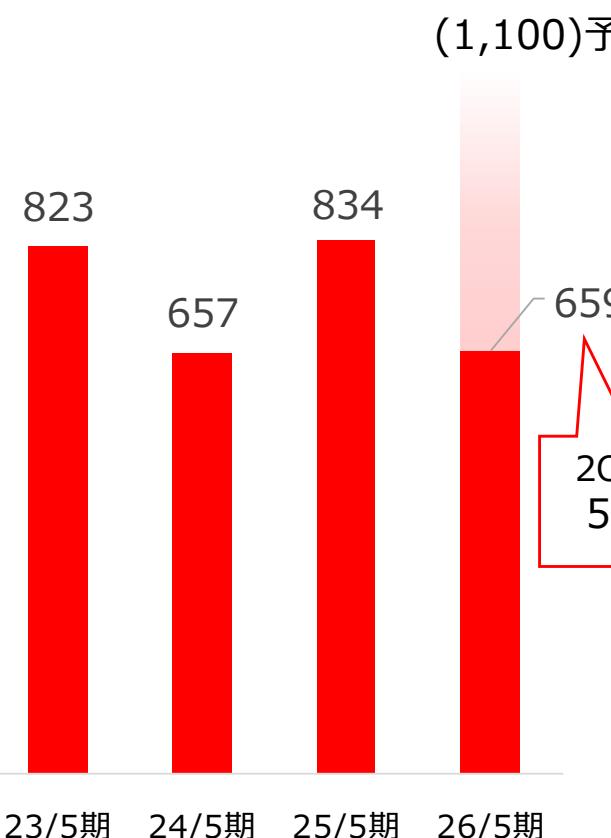
**売上高
659百万円**

(前年同期比)
(126.1%)

**営業利益
5百万円**

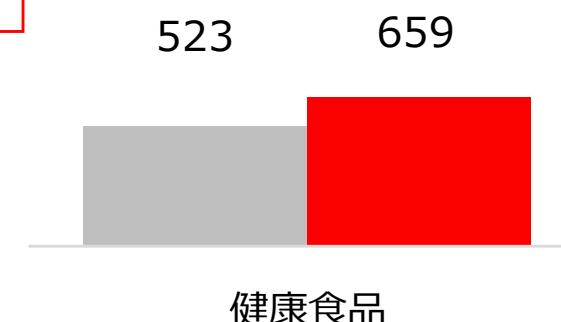
(前同期差額)
(+1百万円)

■ 売上高推移 (単位: 百万円)



- 事業撤退の影響による売上減少を想定していたものの、受注が堅調に推移し、売上は前年同期比で増加
- 原価率は、外注加工費の大幅な増加の影響があるものの、工場稼働率が高水準で推移したことから、当初の想定を下回る原価水準で推移
- 販管費は事業撤退に伴い経費が増加
- 当期末での事業撤退に向けて、受注済み商品の製造・納品を確実に進める

■ 商材別売上高 (単位: 百万円・■: 前期 ■: 今期)



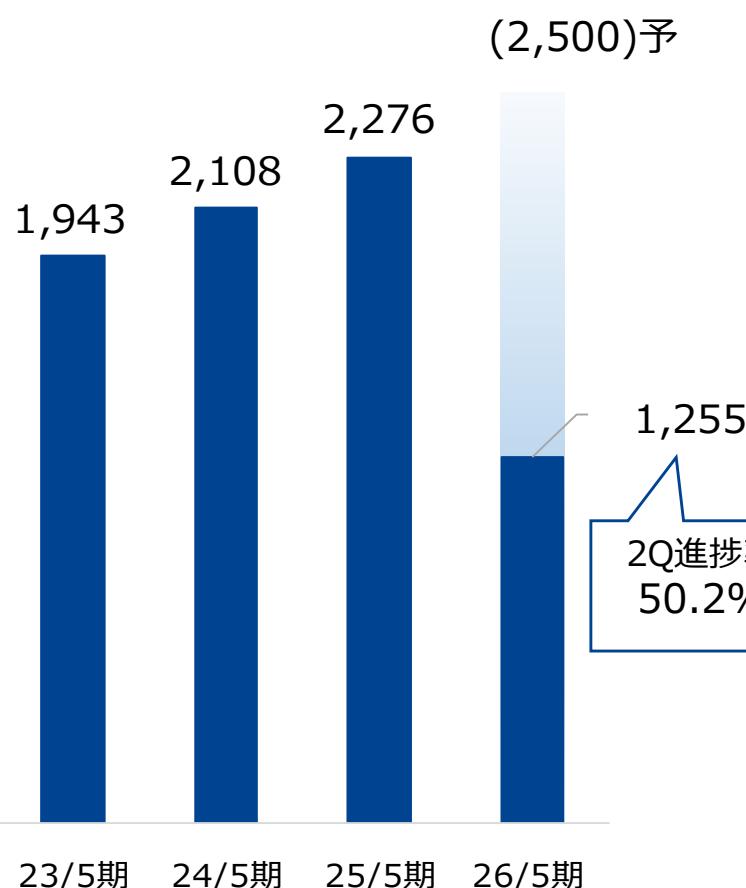
**売上高
1,255百万円**

(前年同期比)
(115.3%)

**営業利益
58百万円**

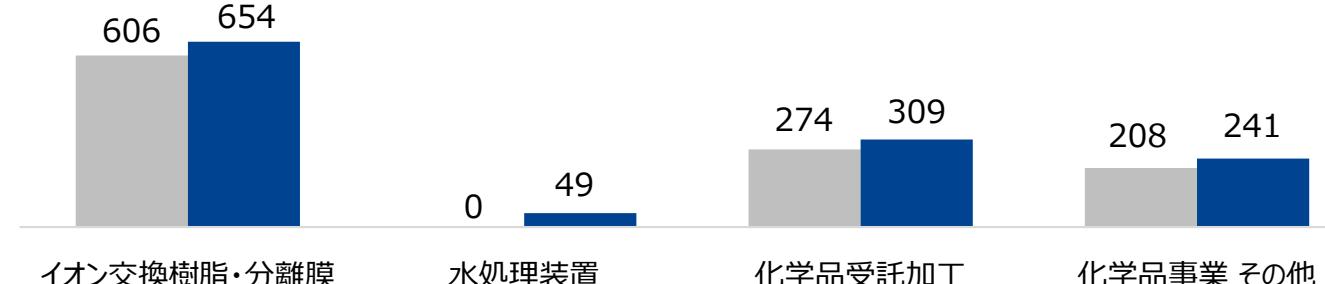
(前同期差額)
(+75百万円)

■ 売上高推移 (単位: 百万円)

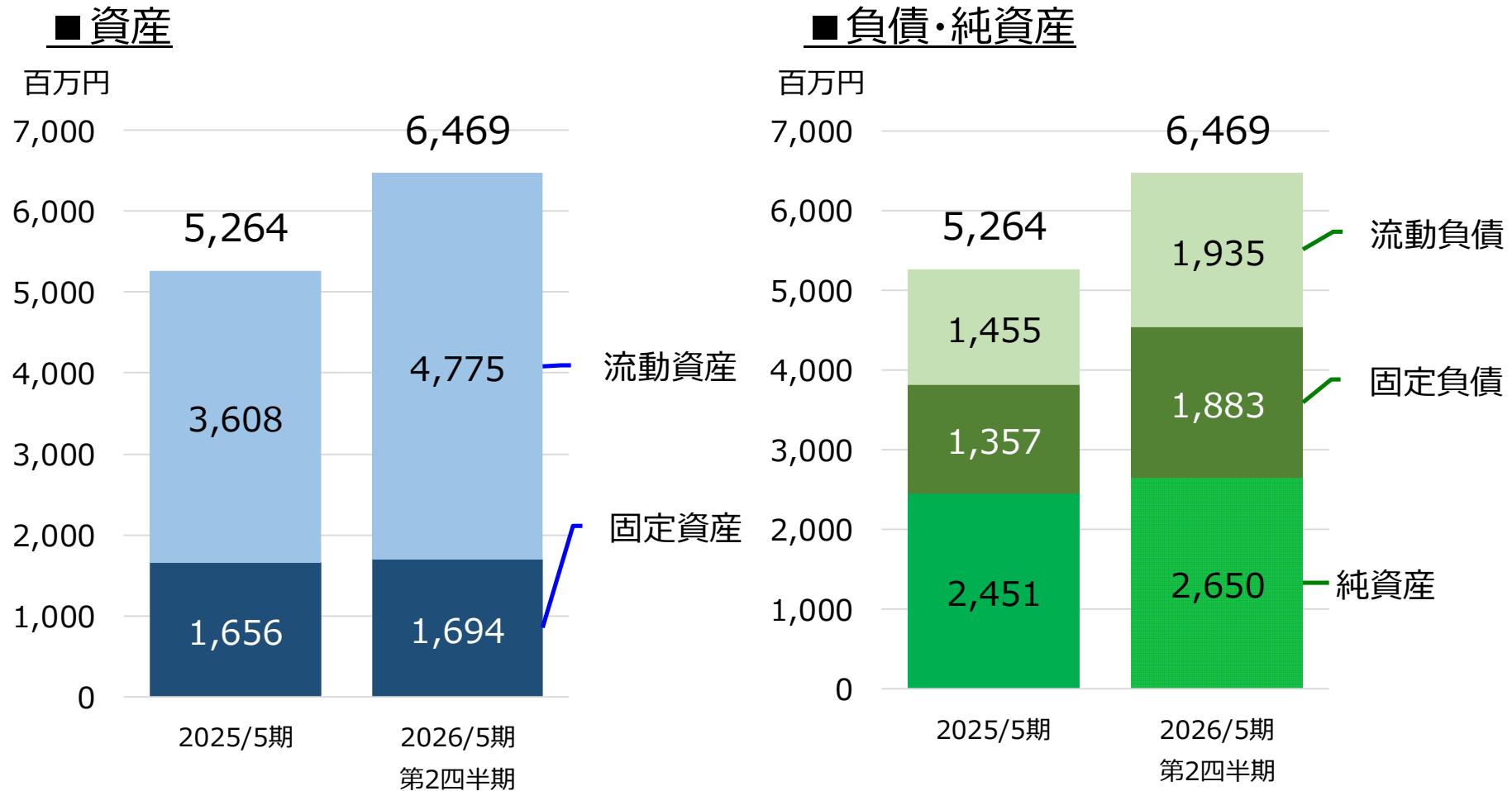


- イオン交換樹脂の自社加工品の売上が好調に推移し、事業全体の売上が前年同期を上回る
- 原価率については、イオン交換樹脂の高付加価値品の売上が好調により、前年同期間比で改善
- アライアンスを活用して電力業界等の未開拓分野へ進出中
- イオン交換樹脂のPFASへの応用について早期より着目し取り組んできた経験を活かし、業界をリードし他社と協業を進めながら、課題解決に向けた活動を積極展開中 (参照: トピックスページ)

■ 商材別売上高 (単位: 百万円・■: 前期 ■: 今期)

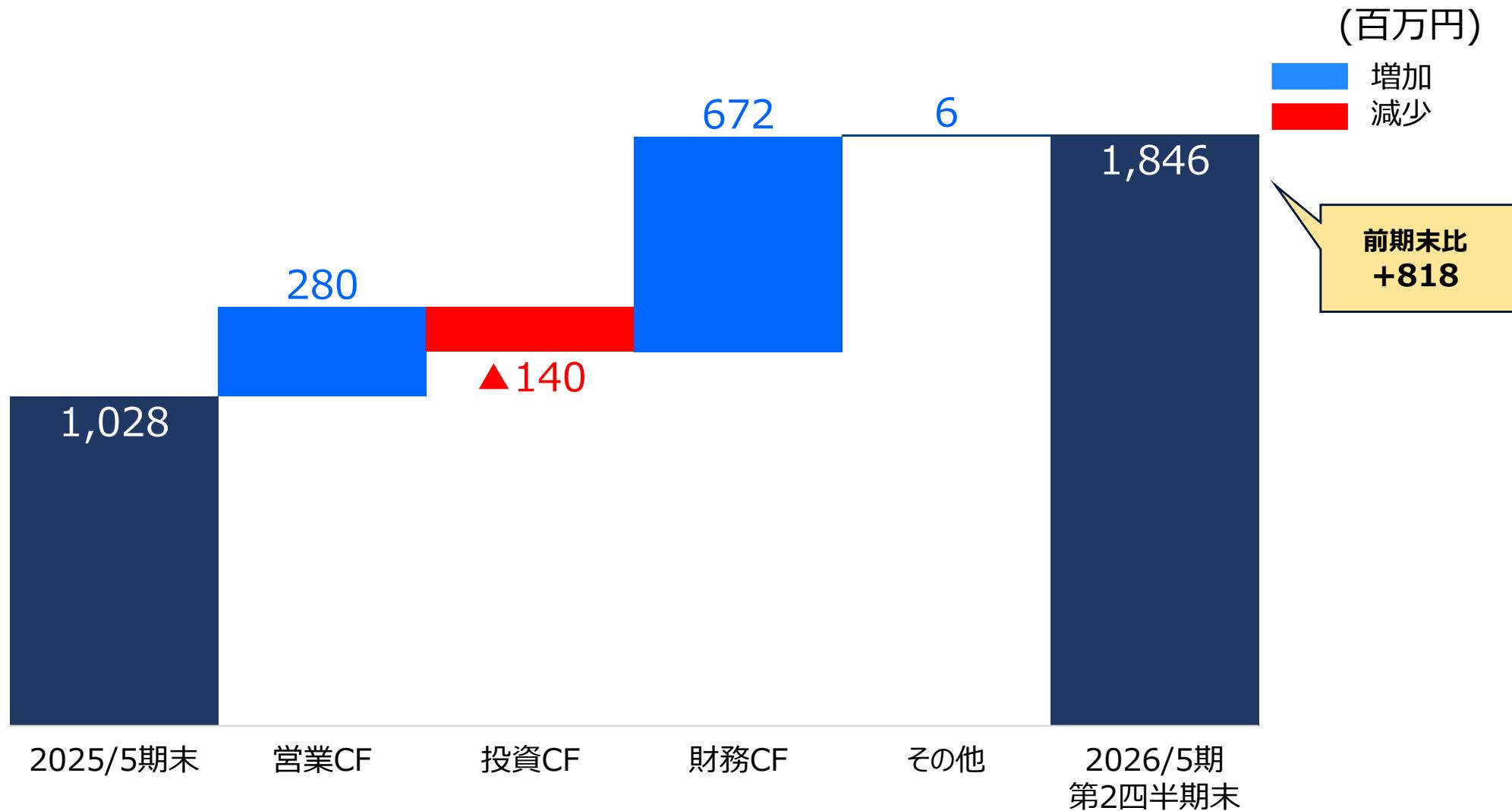


- 資金需要に応じた長期借入金の調達により現預金が増加
- 輸入原薬の売上増加に伴い商品在庫が増加



自己資本比率：41.0% (前期末比 ▲5.6pt)

- 資金需要に応じた長期借入金の調達



取り組み状況・トピックス



環境水中のPFASの浄化事業へ参画

(株式会社奥村組実施)

化学品事業

～検証から事業化へ、市場投入に向け加速～

●環境省公募 PFOS等の濃度低減のための対策技術の実証事業

奥村組提案の「PFAS除去用イオン交換樹脂を用いた処理実証」が採択
当社は樹脂・装置の提供、現地試験フォローを実施

試験期間：2025年9月～2025年12月

最終報告：2026年2月頃に対策技術の最終評価を予定

場所：熊本県の最終処分場（扇田環境センター）

(環境省HP参照：https://www.env.go.jp/press/press_00270.html)



●相模原市 道保川公園での実証試験

相模原市と奥村組が連携して

「PFOS及びPFOAを含む環境水の浄化に向けた技術実証試験」を実施

当社は試験機の貸出、樹脂販売、実証試験フォローを実施

試験期間：2025年11月～2026年2月

(奥村組HP参照：<https://www.okumuragumi.co.jp/newsrelease/2025/pfospfoa.html>)

当社のPFASへの対応

2026年4月のPFOS・PFOAの水道水質基準化にあたり、当社の技術を役立てるべく以下の取り組みを進めています。

モニタリング

各家庭へ提供される飲用水や工場等からの排水中のPFASを定期的にモニターする

簡単な分析方法を確立し、検査にかかる
コスト削減と時間短縮を目指す
(東京学芸大学との共同研究進行中)

除去

PFOS・PFOAを中心とした幅広いPFASを確実に除去する

PFAS除去に有効なイオン交換樹脂を
複数ラインアップで販売中

サステナビリティ

出来るだけ環境に負荷をかけない方法で
除去を行う

PFAS吸着用イオン交換樹脂の
再生に関する基礎技術を確立

当社独自の製造技術を用いた原薬の製造開始

化学品事業

医薬品事業

- ・血管収縮薬用原薬の製造設備投資が完了し、PQ製造が無事に終了（PQ…商業生産前の最終確認プロセス）
- ・化学品事業部との共同開発した独自技術^{*}を用いることで、製造工数を従来法と比較して約30%削減

※当社独自技術

- ・イオン交換樹脂を用いて、原薬の精製・塩置換・合成を行う技術
- ・連続生産が可能であり、エネルギー効率の改善・工数(コスト)の削減・環境負荷の低減が見込める
- ・当製品を実製造に向けて着実に進めていくとともに、当該独自技術を複数の製品製造へ応用することを検討中



治験薬(Phase1)の本生産完了 (アップデート情報)

医薬品事業

- ・新規抗血栓薬の開発に使用するため、臨床治験薬(Phase1)用原薬の本生産が完了
- ・今後は、2027年に(Phase2)用の原薬の本生産を予定
- ・ピーク時売上見込：現時点では不明（※参考 国内抗凝固剤市場(抗血栓薬を含む)：1,000億円以上）

撤退スケジュール

- 顧客（OEM委託元）および仕入先へ状況説明を行い、理解を得る
- すべての開発品の開発と新規獲得のための営業をストップする
- 契約が残っているOEM品については契約を全うする（2026年3月・製造終了予定、2026年4月・販売終了予定）
- 2026年5月末日 事業撤退完了

撤退スケジュール	2025年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月	5月
顧客・仕入先説明												
OEM品の製造												
OEM品の販売												
事業撤退完了												★

今後の見通し

- 空いたスペース（工場・倉庫・事務所）を医薬品・化学品事業での新規案件立上げや既存品の増産への対応に有効活用する
- 異動先での人材の適応を急ぎ、上記の立上げや増産をスムーズに対応できる体制を早期に構築する

業績予想



- 全体の業績進捗と下期の見込みを基に、2025年12月12日に業績予想の修正を発表
- 以降の修正は無し

2026年5月期通期

業績予想の修正	無し	前期比
売上高	7,500百万円	112.7%
営業利益	550百万円	127.3%
経常利益	510百万円	118.6%
当期純利益	350百万円	145.1%
配当金	25.0円	
配当性向	28.6%	

中期経営計画の事業戦略（再掲）



基本方針

～事業の再構築と更なる成長に向けた基盤固め～

- ① 既存事業の伸長と新市場・新技術へのチャレンジ
- ② 売上増に対応した製造体制構築、製造設備の拡充
- ③ アライアンスの積極活用（製造・販売・研究）
- ④ 人的資本経営の導入に向けた土台作り
- ⑤ 資本コストを意識した効率的な経営

医薬品事業部 事業戦略

- ・連続生産システムの技術構築と工場実用化
- ・新たな柱となる自社製造原薬と輸入原薬を育成
- ・主力品の海外販売展開や、製造技術を応用した同系品の製造開始による販売量拡大
- ・新製品のスムーズな立上げ体制構築

化学品事業部 事業戦略

- ・イオン交換樹脂・膜・装置の販売拡大（電力事業関連・PFAS）
- ・海外展開を推進（アライアンスを活用し、新用途のイオン交換樹脂を海外へ販売）
- ・市場性のある新たな用途の樹脂を開発
- ・学会やWebページ等の情報発信を充実させ、新規需要の掘り起こしを加速

参考資料



明治期 福岡県須恵町において「須恵目薬」の製造・販売開始

1917年 福岡県直方市に「大洋製薬合資会社」を設立

1924年 福岡市東区に移転『天洋社』と改称

1938年 福岡市南区に移転。

1944年 戦時企業整備（県内の製薬会社を1社にする制度）により会社を解散し、一時廃業

1947年 戦後、「鉄ペプトン製薬有限会社」として再設立

1948年 販売会社として、「株式会社天洋社」を再設立

1950年 「株式会社天洋社」を「鉄ペプトン製薬有限会社」に合併し、社名を「天洋社薬品有限会社」とする。

1952年 社名を「天洋社薬品工業株式会社」と改称

1971年 ムロマチグループに参入

1996年 福岡県大牟田市に本社工場を新築移転

1998年 『室町ケミカル株式会社』に社名変更

1999年 医薬品第二工場を新設 ISO9001認証取得

2003年 本社隣接地に物流倉庫新設

2005年 『天洋社薬品株式会社』設立 東京支店開設

2006年 健康食品製造工場操業開始
表面処理工場操業開始

2009年 新事務所竣工

2010年 コンパウンド工場操業開始 表面処理事業より撤退

2010年 室町(上海)商貿有限公司設立

2011年 第三医薬品工場新設 尿素水工場操業開始
ムロマチテクノス株式会社より、つくば工場譲受

2013年 新勝立倉庫竣工
東京都千代田区神田駿河台に東京支店を移転

2014年 『東進ケミカル株式会社』の全株式を取得し
100%子会社化
ムロマチテクノス株式会社を吸収合併

2016年 つくば工場にインキ接着剤工場を新設
機能性樹脂コンパウンド事業より撤退
大牟田本社に医薬品ゼリー工場を新設

2017年 東進ケミカル株式会社を吸収合併
大牟田本社に医薬品合成功場を新設

2018年 天洋社薬品株式会社を吸収合併

2019年 埼玉工場を閉鎖 室町(上海)商貿有限公司を清算

2020年 埼玉県和光市に埼玉開発センターを開設

2021年 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場

2024年 埼玉開発センターを千葉県柏市に移転し、医薬品開発センターと改称

長年培った技術を活かし、お客様の事業をサポートします。

医薬品
事業

メーカー機能と商社機能を併せ持ち、原薬に関する様々なサービスを提供

品質と価格を満たす原薬を調達できる「商社機能」と医薬品製造の「メーカー機能」を併せ持ち、原薬に関するトータルサービス（輸入・製造・加工・分析）を提供します。

健康食品
事業

高度なマスキング技術で、求める“おいしさ”を具現化

健康・美容成分には食べづらい味や匂いのものもありますが、それらを包み隠す「マスキング技術」で、続けることが大切な健康食品にとって重要な「おいしさ」のご要望にお応えします。

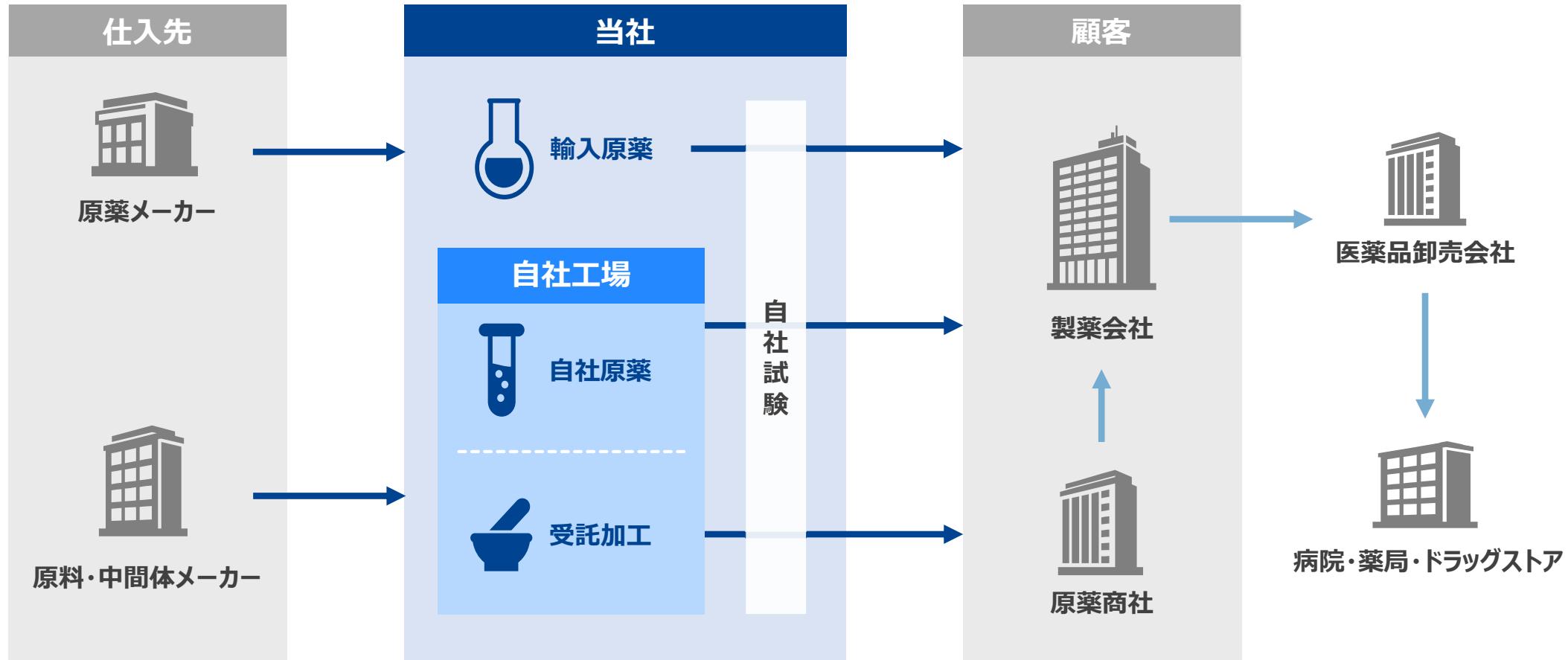
※2026年5月期末 事業撤退完了予定

化学品
事業

特殊な用途にも対応できる技術で液体処理の課題を解決

排水の処理や薬品の精製などの特殊な用途でも、豊富な製品ラインナップと長年培ってきたノウハウで最適な製品や処理方法をご提案します。

病院や薬局などで提供される医薬品は、有効成分となる「原薬」と様々な添加剤で出来ています。当社の医薬品事業では、この「原薬」の製造・販売を行っています。現在当社が取り扱っている原薬は、医療用医薬品*(ジェネリック医薬品*)向けが主となっております。



* 医療用医薬品(医家向け医薬品)

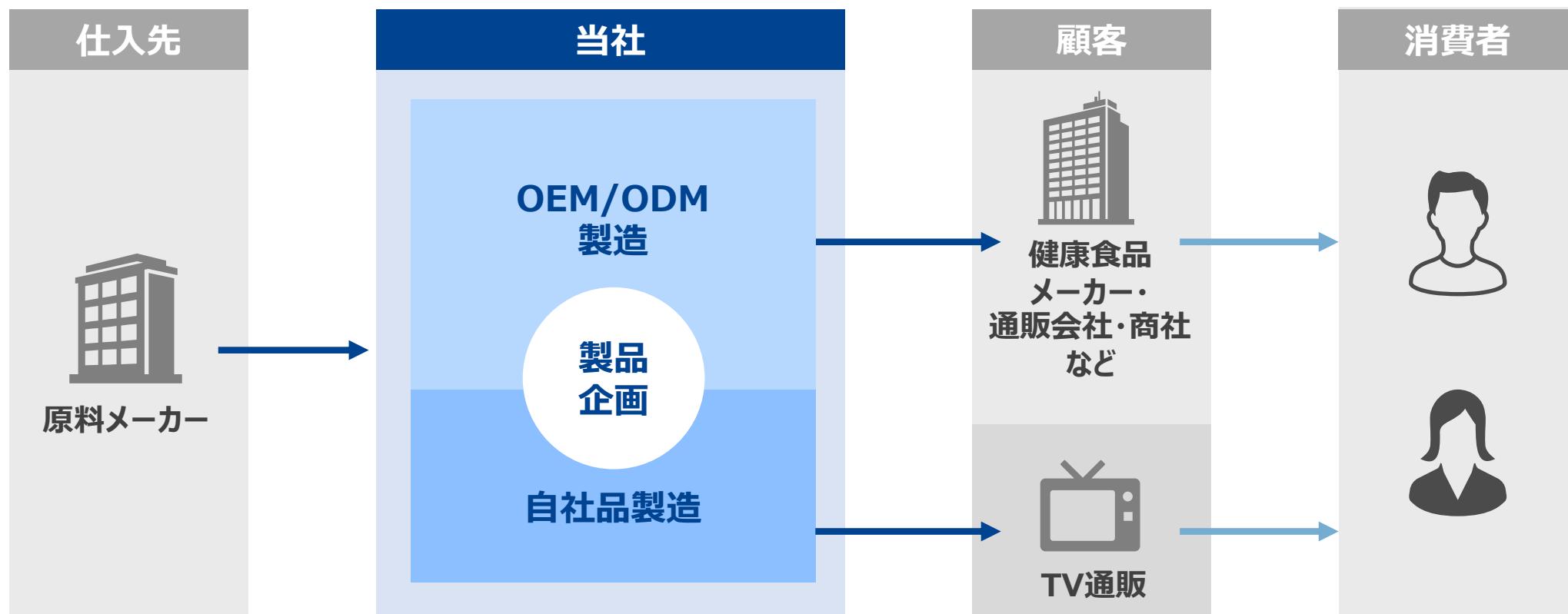
…病院で医師の診断をもとに処方してもらう薬のこと。対して、薬局等で購入できる薬を一般用医薬品(OTC薬品、市販薬)という。

* ジェネリック医薬品(後発医薬品)

…新薬(先発医薬品)の特許が切れた後、同じ有効成分を使って製造される薬。新薬に比べ開発費用が抑えられるため低価格で提供される。

健康食品には、錠剤、カプセル、粉体、ドリンクなど様々な形態がありますが、当社は、「ステイックゼリー」タイプの健康食品の企画・製造を行っています。現在は、OEM・ODM*が主となっており、売上の8割を占めています。

ステイックゼリーの健康食品は、おやつ感覚でおいしく、水が無くても摂取できる、携帯しやすい、などの特徴があります。



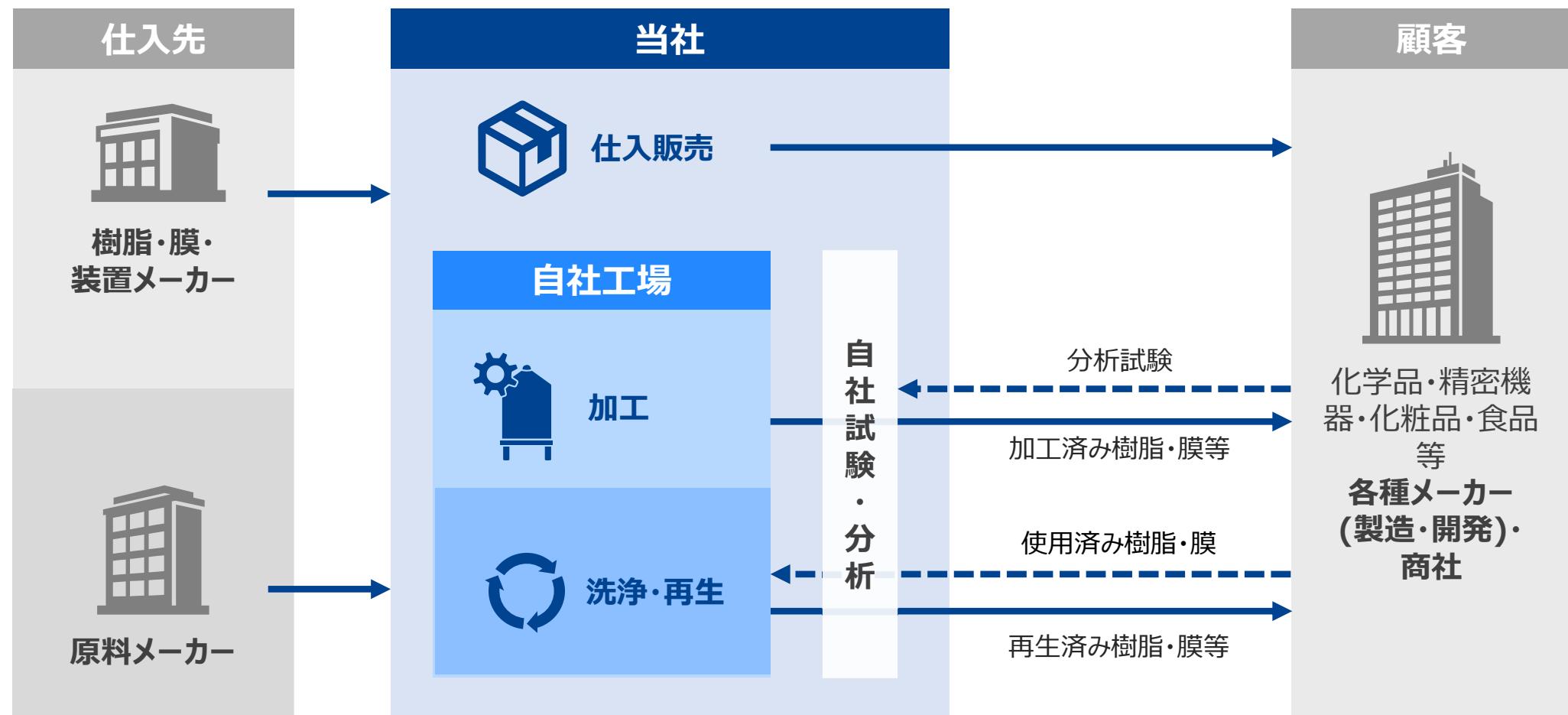
* ODM(Original Design Manufacturing)

…発注元企業のブランド名で販売される製品の、製造のみを行うOEM（Original Equipment Manufacturing）に対し、ODMは企画や設計、製造までを行う。

液体処理に使用される「イオン交換樹脂」や「分離膜」を取り扱っています。目的に適した製品の提案をするほか、使用に適するよう加工も行います。

様々な業界の製造や開発の現場で使用される純水や軟水の製造、薬品の精製、排水の処理など、活用される場面は多岐にわたります。

他に、接着剤やペーストなど機能材料の加工や販売をおこなっています。





<本資料に関するお問い合わせ先>
室町ケミカル株式会社 経営企画室
E-mail : ir-kikaku@muro-chem.co.jp

<本資料取扱上の注意点>

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、経営環境の変化等により、予告なしに変更される可能性があります。また、実際の業績等は様々な要因により変動する可能性があります。

掲載の内容については未監査の数値も含まれており、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報やその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料は投資家の皆様に当社をご理解いただくことを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。